

泉の森 なんでも情報館

2015年 冬号(No.16)

発行 しらかしのいえボランティア協議会
エリアマップ作成班

クローズアップエリア しらかしの池～ふれあいの森

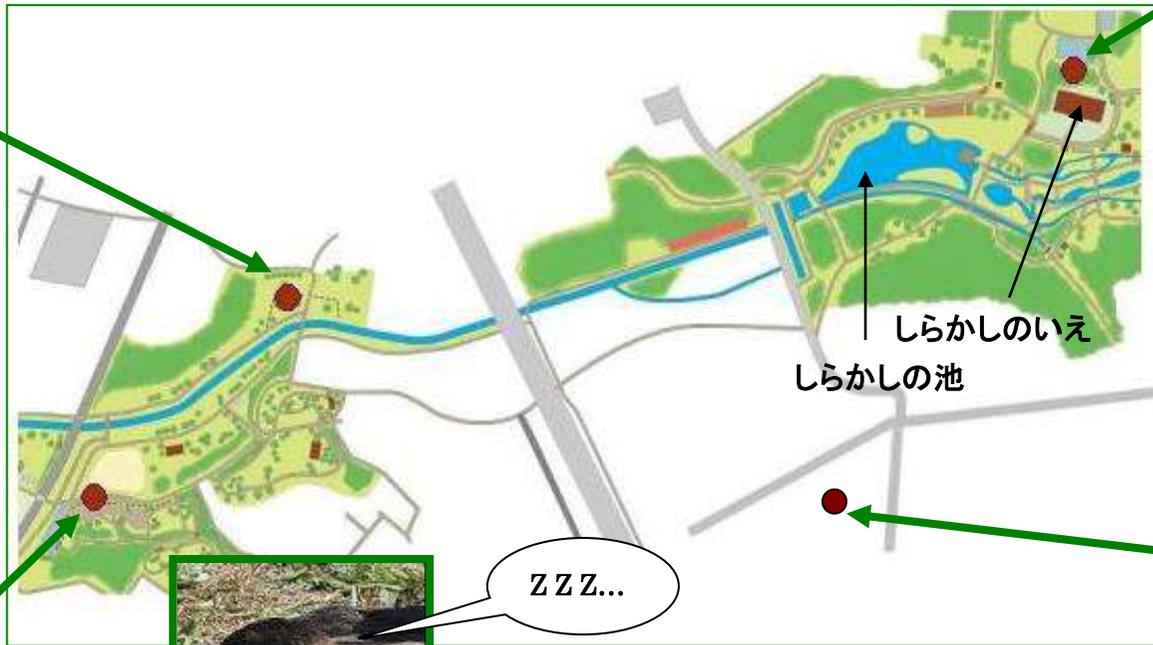
年が明けて、『なんでも情報館』はいよいよ5年目突入です！ これも毎号読んでくださる皆様のおかげです。編集スタッフ一同、心よりお礼を申し上げます。
これからも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



台湾亭の柱には、何が書いてあるのでしょうか？ (p.2)



年が明けて最初に咲くのがロウバイでしょう (p.2)



鳥たちはどんなふう
に眠っているのでしょうか？
(p.3)



竹炭工房がリニューアル！新たなメンバーも加わって、かわいい新製品も作っています (p.3)



このあたりにほとんど字が読めなくなった碑がありました、今はありません。これは何なのでしょう、どうなっているのでしょうか？ (p.4)

台湾亭の詩

ふれあい広場の台湾亭は、元台湾少年工の台湾高座會が留日50周年の1993年に日台友好を祈念して建てたものです。その6本の柱には次のような漢詩が書いてあります(枠内に右から左へ縦書き。その下は書き下し文)。



臺(だい)の高きに日を早く迎え
灣廻して春光を得る
高らかに歌えば浩氣を舒(じょ)し
亭に坐して煙雲を看る
會ず(かならず)心は松柏に堅く
冰霜(ひょうそう)に勵(れい)して志を節す
(写真は第6句が書かれた柱)

漢字が難しく分かりにくいのですが、なにかの想いが込められているのではないかと思います。今まで調べてきた台湾少年工の歴史を踏まえて、私なりの訳、解釈をしてみました。

- 訳
- ・高台に登り朝早く陽の昇るのを迎えるように、台湾の少年は年若くして日本に迎えられ、ようやく春の光のような好機を得た。
 - ・あるときは高らかに青春の歌をうたって浩然の気を養い、またあるときは亭に坐して悠然と大空に白雲が流れて行くのを見る。
 - ・心は厳しい冬にも緑を失わない松柏のごとく必ず堅固であり、冷たい氷や霜に鍛えられた不屈の志を抱いている。

まず第一句と第二句ですが、素直に読むと「高台に登って早朝の陽が昇るのを迎え、回り廻って春の光を得た」ということになります。しかし、台湾少年工は高等小学校卒の15才~16才が主だったこと、貧しいが優秀な彼らは、向学心を満たし、航空技師などの明るい将来を目指すために日本に来たこと、日本に来るまでには選抜試験を始め、家族の反対などの関門をくり抜けてきたことなどを考えると、この第一句と第二句はその間の事情を述べたものと考えられます。「臺」は台湾の意味もあるし、「日」は日本でもあるのです。そして「早」は彼らの年少だったことを表しているのではないのでしょうか。「灣廻」の意味も日本に来るまでの試練のための回り道を言っているのでしょうか。「春光」はようやく自分たちの未来が開ける機会を得たことを表していると思います。

第三句と第四句は彼らの青春の1シーンを切り取っています。季節は夏、秋でしょうか。

第五句と第六句は彼らの決意、志を述べています。松柏類は冬にも緑を失わない樹木で心の堅固な様子を表し、南国育ちの彼らが大和の厳しい冬の寒さに苦しみながらも耐え抜いたことを踏まえて、冷たい氷や霜に鍛えられた不屈の志を抱いているとしています。

この漢詩の各句の先頭の字を続けて読むと(左ページの矢印)「臺灣高座會志」となります。勉学や仕事に励み、将来を自らの手で切り開こうとした台湾少年工の大いなる志を感じますね。新しい年は、我々も彼らに負けない志を持って頑張っていきたいものです。(橋本幸夫)

ロウバイ (蠟梅 ロウバイ科ロウバイ属)

冬のさなか、輝くような花を咲かせるロウバイ。新年を寿ぐのに相応しい花の一つですね。写真のように中心部も黄色いものはソシンロウバイ。ソシンは「素心」。「素」は“すっぴん”という意味だそうです。ただのロウバイは中心部が赤紫色。さてあなたがお正月に飾ったのはどちら？ふれあいの森で新春を告げているのは、どちらでしょう？民家園でも見られます。さっそくチェックしてみませんか？



泉の森の竹炭の新製品です！

なんでも情報館の1, 2, 4号で、”泉の森の竹炭焼きものがたり”として、竹炭をどうやって作っているか、竹炭や竹酢液の効能・使い方などを紹介しています。今回は新製品の紹介です。



1. 新製品は、主婦目線の使いやすさとかわいさが素敵です。

竹炭が消臭に効果があるといっても、そのまま靴に入れたら黒くなってしまうのでは、とか、トイレにむき出しで置くのもなにか、などと思いませんか？



そこで使いやすいように、適当な大きさの竹炭を袋詰めしました。

①が大人のブーツ用、②が幼児靴用、③がトイレ用です。私の孫に②をすぐにでもプレゼントしたい、などと思ってしまいました。

このほか、”竹炭スティック”(④)や、生け花用竹炭小枝などもあるのです。これらの製品のお値段は100～200円程度、年明けから民家園で販売される予定です。

2. 竹炭工場の今

昨年の大雪で工房テントが潰れ、その後、修理改築した工房には、奥様方も集まって、針仕事もしています。”楽しいのが一番”とのこと。見に来て下さい。(伊藤 健一)



竹炭工場のメンバーです(左から1, 4番目:保田さん夫妻、2番目:村田さん、3番目:岸本さん 5, 6番目:鈴木さん夫妻)

鳥はどんなふう眠っているの？

鳥たちの多くは昼間活動して、夜暗くなると眠りにつきます。泉の森に来る鳥たちは、寝るときはどうしているのだろうか？ まず寝方から、小鳥たちは止り木にお腹をつけるように深々と止まり、首を縮め、瞼を閉じてまどろみます。エナガは藪の中の低い所や木の枝に身を寄せ合って並んで止まって寝ます。寒さが厳しい夜は、深い繁みか穴の中で一緒に集まって丸まって寝ます。その時、エナガの尾はあちこち向くように球状になり、熱が逃げるのを防いでいるのです。シジュウカラなどは木に架けられた巣箱を塹に使っていることが観察されています。このことから、巣箱が防寒用に使われることが多いので、晩秋から初冬にかけて、用意されると鳥たちは嬉しいでしょうね。ヒドリガモなどカモたちは水から上がり、地上にうずくまり、またはアシなどの繁みで、さらに仕方のない時は水上に浮いたまま、首を背中に埋めて眠ります。泉の森には居ませんが、ツルやコウノトリなど浅い水中、泥沼、氷の上などで、うずくまる訳には行かない場合には、片足で立つようになります(写真参照)、これも二本足で立つより一本足ですむならば、不要の一本を羽毛の中にしまい込んでしまう方が、体温の無駄な発散を防ぐことができる訳です。この時、身体を支えている足の付け根に一種の熱交換器があって、足先から冷やされて帰った静脈血がここで体内から送られてきた熱い動脈血の熱をうばい、温められた状態で、体内に戻って行きます。熱を放出した動脈血は冷たくなって足の先へ向かうので、たとえば、足指にしもやけができたりはしないのです。また片足立ちで、首を背に埋めて熟睡しても倒れたり、よろめいたりしないのは、すばらしい平衡感覚の持ち主の証なのです。(藤井和子)



写真:首を背中に埋めて一本足で眠るヘラサギ(2013年12月 埼玉県川越市にて) 3

館野鉄工所墜落事故50周年について

昨年9月 館野鉄工所米軍機墜落事故の50周年の法要が営まれ、慰霊碑も新しいものになったことが報じられました。草柳園から東にちょっと坂を登ったところ、緑のフェンスに囲まれた薄暗い林の中に、以前、ほとんど字も読めなくなっていた慰霊碑があり、そこに後日、お参りにいったところ、慰霊碑はありませんでした。

昨年11月に”50周年慰霊市民の集い”が催され、それに参加したところ、新しい慰霊碑が展示されていました(右の写真)。防衛局の許可が得られず、一旦撤去して手続きを進め、なるべく早く設置したいとのことでした。

墜落事故が起きたのは、1964年(S39)9月8日。厚木基地を飛び立った空母艦載機が離陸直後、館野鉄工所に墜落し、工場主の長男・

次男・三男・甥と従業員、計5名の犠牲者が出られました。集いの会で四男の方が話をされました。そういう場で話をされるのは初めてとのこと。当時の悲惨さに、胸が締め付けられました。

位置関係確認のため、地図に滑走路の延長線を引いてみました(左の図)。

- * 館野鉄工所跡は真に滑走路の延長です。
- * 東名高速大和トンネル、
- * 相鉄線草柳トンネルも同様です。

泉の森とふれあいの森は、なんでも情報館1, 2号の”泉の森誕生秘話”で紹介した通り、当時相次いだ墜落事故対策として、昔からの里山が1960年(S35)から住居集団移転により国に収用されて苗木が植栽され、それを核に1997年(H9)まで10年かけて、自然公園として誕生したのです。



もう一度、墜落事故等について考えてみましょう。厚木飛行場は、太平洋戦争の後、朝鮮戦争の勃発を機に、1950年(S25)12月から米海軍第七艦隊所属の艦載機の航空基地になりました。以降、多くの事故が発生し、特に館野鉄工所墜落事故が起きたのは、ベトナム戦争(トンキン湾事件 1964.8~)が激しくなった頃なのです。

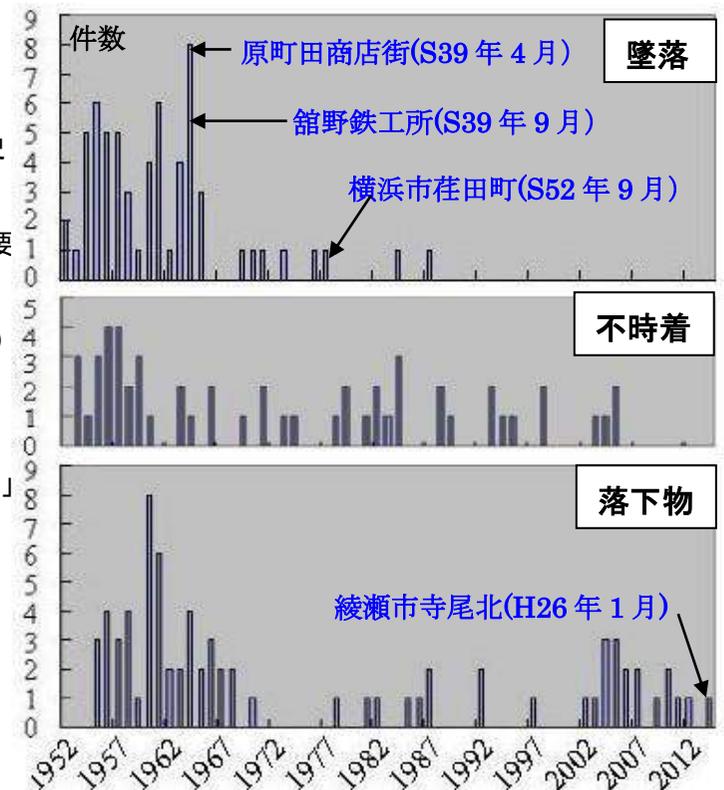
事故件数の推移をグラフにしてみました(下の図)。館野鉄工所の事故の5ヶ月前には原町田商店街の事故が起き、この年は8件の事故が相次いで、さらに13年後、荏田町で3才と1才の幼児が死亡し、お母さんもその4年後精神病院で亡くなられた、忘れられない悲劇が起きています。墜落事故は、1987年(S62)の事故以降、無くなっていますが、不時着・落下物の事故はまだまだ続いており、昨年1月にも綾瀬市寺尾北の住宅街にジェット機の金属部品が落下して住宅フェンスと車の窓ガラスが破損しました。

まだまだ危険と隣り合わせです。ふれあいの森も、滑走路南側にあるゆとりの森も滑走路延長の直上にあることを覚えておきましょう。事故が決して起きないように努力を続けてもらうことが必要です。そして、緑の保全の大切さとともに、泉の森がこうした悲劇の歴史によって生まれたことを語り継いでいくことも必要ではないでしょうか。

(伊藤 健一)

(参考文献)

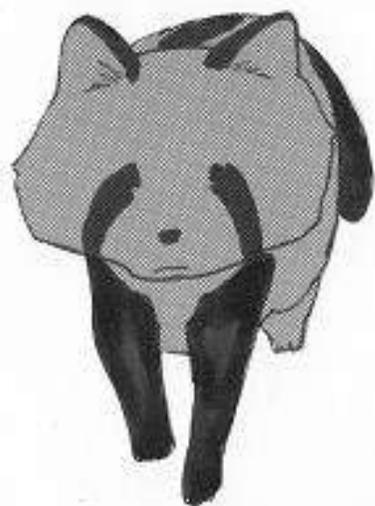
- * 「神奈川県のみ軍基地」 (2007.8 神奈川県)
- * 「大和市と厚木基地」 (2007.7 大和市)
- * 右図データの2007年以降は、各種ネット記事を参照しました。



なんでも休み時間⑫カイセンの恐怖

(中小田美希)

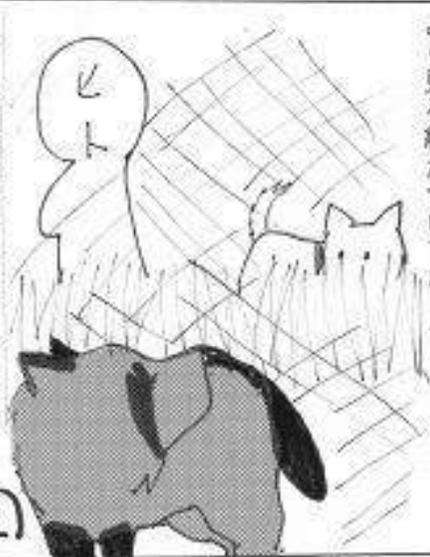
僕は上草柳のタヌキ



でも、もうここにはいません
その話をしましょう。
それは、夏の日の涼しい夕方でした。

1)

その人が連れていたのは犬でした。
よく見る紐がついてなくて



犬が怖い僕はすぐに逃げました。

2)

それからすぐです。
体がかゆくてかゆくて仕方なくなって
すごく辛かったから



あんまり掻いたものだから、
僕の毛はほとんどと抜けていったのです。
後で知らされた僕の病名は

3)

カイセン病...

次第に僕は全身が痒くなって、
おまけに大好きな団栗や蚯蚓も
食べられなくなりました。



僕は夜行性だけど区別もつかなくなって、
そんなところをある日人間に
見つかりました。

5)

僕は今、故郷から離れた動物園で
この病気の治療をしています。

野性動物を死に至らしめるカイセン病は
カイセンタニを持つ飼い犬が媒介し
タヌキ、イノシシ等に感染します。

イノシシには
糸刺す薬...



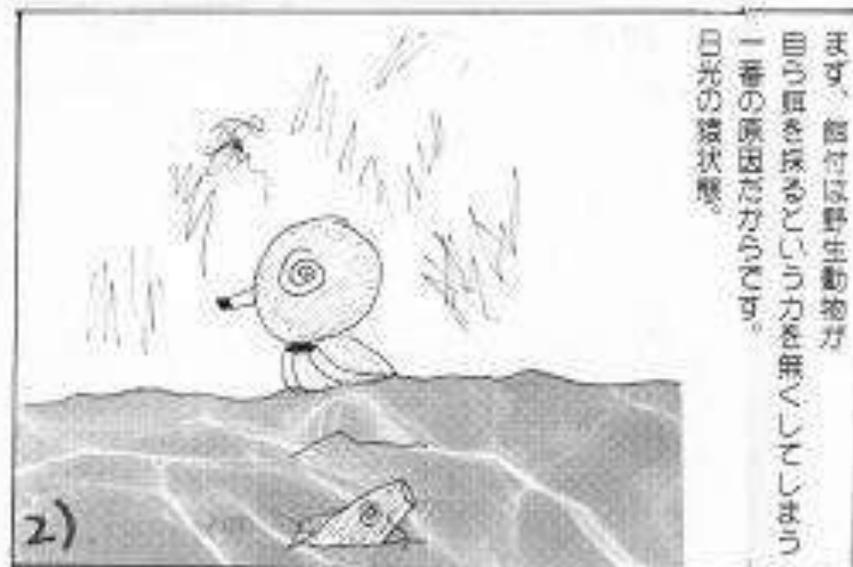
泉の森では既にタヌキが
カイセン病で命を落としています。
愛犬には必ずリードを付け、
糞を必ず持ち帰るマナーを
皆さんで守りましょう。

完

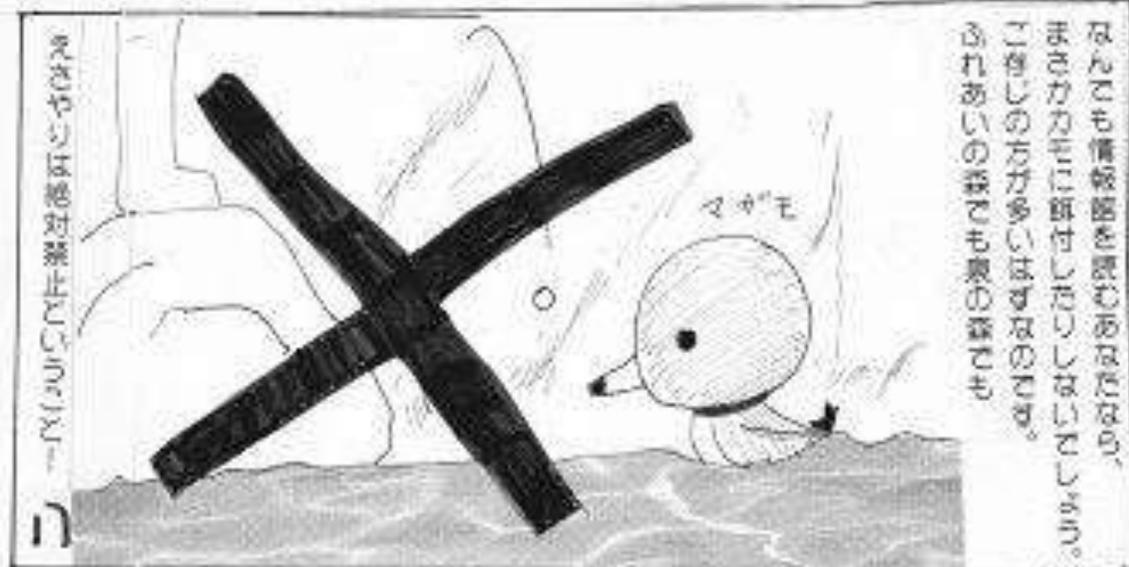
6)

なんでも休み時間⑪ご飯足りてます

(中小田美希)



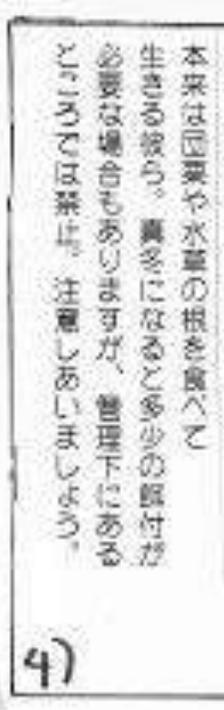
まず、雨は野生動物が
目の目を濡らすことが原因で、
一番の原因はこれか。
目水の現状。



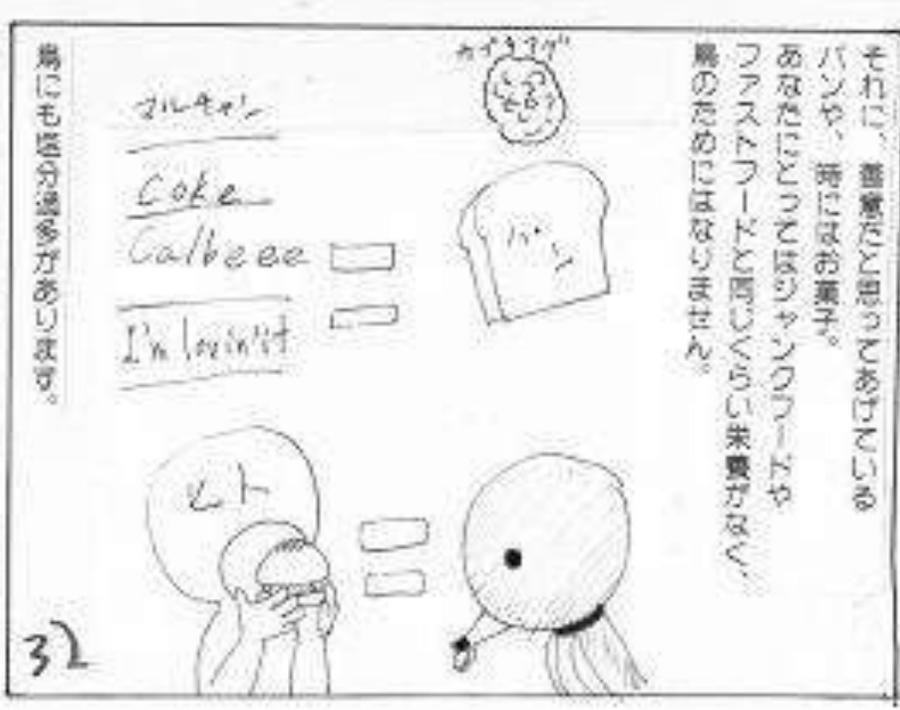
なんでも情報源を隠してはダメだ、
またか。目水に餌付けしてはダメだ。
目水の目水は多いが、それはダメだ。
目水の目水も、目の目水も。



目水の目水を、目水の目水を、
目水の目水を、目水の目水を、
目水の目水を、目水の目水を、
目水の目水を、目水の目水を、



目水の目水を、目水の目水を、
目水の目水を、目水の目水を、
目水の目水を、目水の目水を、
目水の目水を、目水の目水を、



目水の目水を、目水の目水を、
目水の目水を、目水の目水を、
目水の目水を、目水の目水を、
目水の目水を、目水の目水を、

完